

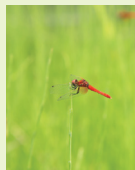
発見① なにやら美しい幼虫を見いつけた

黄緑色をした綺麗なヒメヤマユガの幼虫は、まだまだ成長中。夏の盛りに羽化する前に、繭を作りサナギの時期を過ごす。近種のヤマユガの繭は、天然の絹糸の原料だ。



発見② 湿地で見られる世界最小!?

体長2cmほどの、世界最小のトンボといわれるハッチョウトンボを発見。雄は写真のような鮮やかな赤色が特徴で、湿地帯や田んぼの周りなどで見つけられる。



check

多様な湿地ならびはの植物たち

参加者全員で、保全されている湿地を散策。ここには多様な動植物が生活し、湿原を彩っている。参加者のみなさんもカメラやルーペで熱心に観察して、しっかりとメモに書き留めていた。

①粘液滴で捕虫するイシモチソウ。小石を持ち上げるほどの粘性からこの名が付いたとか ②こちらも食虫植物の一種であるモウセンゴケ。葉から粘液を分泌して捕虫してしまう ③鮮やかな紫色のハナショウブが満開。初夏の湿地を代表する植物



ふるって 参加

7~9月に開催予定の里山セミナー

7/7(日) プッポウソウの子育てを観察しよう

8月下旬 視察研修

7/28(日) 湿地の植物を観察しよう

9/22(日) 秋のトンボを観察しよう

8/4(日) 満開のサギソウを観察しよう

9/29(日) 秋のチョウを観察しよう

問い合わせ

せら夢公園管理センター ☎0847-25-4400

こちらもオススメ!

国7月27日(土)
開19:00~20:00
国 本郷町船木地区原集会所周辺
※参加は船木地域の小学生が対象、見学は可能

船木地区の虫送りは、江戸時代の享保の大ききんに由来。全国各地にも、今も虫送り行事が残っている



虫が稲を食い荒らさないようにに神様に祈る「虫祈禱」が行事化したもので、三原市では本郷町船木に伝わる。太鼓の音が響くなか、火の点いた松明を持った子どもたちが、秋の豊作を祈りながら町内をゆっくりと練り歩く。

【虫送り】三原市の伝統行事

そも そも

里山セミナーってなんだ?

せら夢公園に設けられた、世羅高原の自然を丸ごと体験できる自然観察園・里山体験で年間を通して行われる、自然体験セミナー。家族でも気軽に参加でき、フィールドワークを中心に、自然に対する考え方や知識が身につくと好評。



開9:00~12:00

対象/どなたでも受講可

期間/〜2020年3月(2019年度)

定員/30人

受講料/全セミナーを通して1,000円/家族、1回200円(※一部受講の場合)/家族

☎http://www.serawinery.jp/news/

※詳しくは、せら夢公園管理センター(0847-25-4400)まで

体験レポート

5/26(日)

初夏の植物を観察しよう



「自然観察園」は、ため池や樹林、あぜ道、湿生花園、湿地を擁し、世羅大地で見られる多様な動植物を保全している。参加者は、この日の講師、浜田さんの話を聞きながら園内をゆっくり散策した。

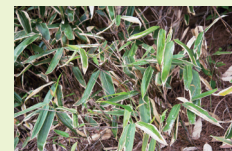
講師の浜田展也さん(神辺旭高校教諭)

どっち ?

ブタナとタンポポを見分けられる?

ブタナとタンポポは、どちらも黄色い花を咲かせる多年草。よく似ているけど、違う植物。タンポポは15~30cmくらいの高さで、茎に1つの花を咲かせ、ブタナは40cm以上になり、茎が途中で枝分かれして複数の花をつける。

クマザサではなく、アズマザサの一種で葉生笹ではないですよ。笹の世界は奥が深いですよ



イネ科のカモガヤを手に取って、特徴を説明してくれる浜田さん。近種のハルガヤとともに、花粉症の原因の一つともいわれている。



セミナーでは自然観察だけでなく、里山を整備する機会もあります。ぜひご参加ください

感じる!

世羅の豊かな自然

せら夢公園
サポーターズクラブ代表
中島秀也さん

